

九州厚生局長 殿

学校法人 久留米大学
理事長 神代 正道

久留米大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	178.63 人
--------	----------

(注)前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数 単位 人

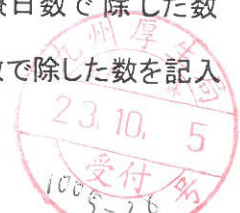
職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医師	84	604	549.4	看護業務補助者	19	診療エックス線技師	0
歯科医師	0	19	11.9	理学療法士	14	臨 床 検 査 技 師	74
薬剤師	56	1	56.6	作業療法士	9	衛 生 検 査 技 師	0
保健師	0	0	0.0	視能訓練士	6	そ の 他	0
助産師	39	0	39.0	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	953	5	956.8	臨床工学技士	14	医療社会事業従事者	5
准看護師	6	0	6.0	栄養士	1	その他の技術員	12
歯科衛生士	3	1	3.5	歯科技工士	2	事務職員	93
管理栄養士	12	0	12.0	診療放射線技師	52	その他の職員	55

- (注)1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を少数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	872.6 人	18.5 人	891.1 人
1日当たり平均外来患者数	1,846.8 人	91.1 人	1,937.9 人
1日当たり平均調剤数			1,330.7 剤

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を 暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	フェコフローメトリーによる客観的排便機能評価	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 直腸肛門外科術後の客観的排便機能評価は小児、成人とも難しい。ウロフローメトリーにヒントを得た模擬液注腸後その排せつパターンを定量化したもの			
医療技術名	食道インピーダンス法による胃食道逆流症	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 検査システムの構築 胃食道逆流症患者のより客観的な診断に食道インピーダンス法導入し定量化したもの			
医療技術名	多チャンネル直腸肛門内圧測定による三次元立体圧象・断面圧象作成	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 多チャンネルセンサーを用い直腸肛門内圧測定を行いデータから圧分布を三次元表示するもの			
医療技術名	血管内皮前駆細胞を用いた肝硬変症に対する肝臓再生療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 非代償性肝硬変症患者を対象とし、患者自身の末梢血から採取した幹細胞(CD34陽性細胞)移植による肝臓再生療法を行っている。適応基準は、同意取得時の年齢が20歳以上、75歳以下(性別不問)、血清アルブミン濃度が3.0g/dl未満の患者である。安全性について、現在までに重篤な有害事象の発生はない。有効性について、血清アルブミン値の上昇やPT-INR値の低下、門脈血流の増加、内服利尿剤の減量・中止等の結果が得られている。			
医療技術名	ADHD児への夏期集中治療プログラム	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 エビデンスに基づく行動用法、SST、ペアレントトレーニングなどの心理社会的療法を夏期休暇中に集中的に行う。本プログラムは、米国以外では、久留米市だけで実施されており、医療・心理・教育の専門家、学生が協働で2週間実施している。			
医療技術名	ミトコンドリア脳筋症の遺伝子検索	取扱患者数	53人
当該医療技術の概要 ミトコンドリア脳筋症が臨床的に疑われた症例に関して、遺伝子検索を行っている。			
医療技術名	低体温療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 中等～重症新生児脳症に罹患する児を72時間33-34℃に冷却することで、1歳半までの重度後遺障害を半減することができる治療であるが、とりわけ導入期と復温期には1対1の管理が必要になる。			
医療技術名	持続濾過透析	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 先天性代謝異常症や急性腎不全等に対し、持続濾過透析を導入することで、腎・肝機能を代償し、根本治療が開始できるまでの間に、脳や心筋への傷害が及ぶのを防ぐ治療である。			
医療技術名	一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 呼吸障害に肺血管抵抗の異常(肺高血圧症)が合併する疾患は多いが、強力な肺血管拡張薬である一酸化窒素を閉鎖回路で吸入することで、呼吸管理が可能になる症例が増えている。これまでは体血圧に副作用が及ぶ注射薬剤しか治療薬がなかった。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	179人	・膿疱性乾癬	11人
・多発性硬化症	96人	・広範脊柱管狭窄症	16人
・重症筋無力症	266人	・原発性胆汁性肝硬変	1,326人
・全身性エリテマトーデス	2,445人	・重症急性膵炎	1,168人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	120人
・再生不良性貧血	445人	・混合性結合組織病	261人
・サルコイドーシス	403人	・原発性免疫不全症候群	842人
・筋萎縮性側索硬化症	33人	・特発性間質性肺炎	1,636人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	650人	・網膜色素変性症	324人
・特発性血小板減少性紫斑病	271人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	48人	・肺動脈性肺高血圧症	283人
・潰瘍性大腸炎	350人	・神経線維腫症	113人
・大動脈炎症候群	76人	・亜急性硬化性全脳炎	4人
・ピュルガー病	162人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	270人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8人
・脊髄小脳変性症	98人	・ライソゾーム病	425人
・クローン病	122人	・副腎白質ジストロフィー	3人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	11人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	37人
・悪性関節リウマチ	2,718人	・脊髄性筋萎縮症	6人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	697人	・球脊髄性筋萎縮症	3人
・アミロイドーシス	87人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	16人
・後縦靭帯骨化症	353人	・肥大型心筋症	302人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	50人	・ミトコンドリア病	80人
・ウェゲナー肉芽腫症	153人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	147人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	60人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	114人	・黄色靭帯骨化症	65人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	16人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	1,088人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
※別紙1の通り				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計150

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
※別紙2の通り			

計 198

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
喘息死、COPD及びマウスモデルにおける炎症細胞とサイトカインに関する研究	星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科部門	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新しい自己炎症疾患から学ぶポストゲノム時代の蛋白機能解析	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科部門	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規動物モデルを用いたCOPDと併存症の研究	松永 和子	呼吸器・神経・膠原病内科部門	2,080,000	補委	文部科学省
臨床疫学調査結果・新規免疫検査結果に基づくアトピー性脊髄炎の新規診断基準作成とその国内外での臨床応用	谷脇 考恭	呼吸器・神経・膠原病内科部門	1,000,000	補委	厚生労働省
関節リウマチに対する生物学的製剤の作用機序、投与方法、治療効果等に関する研究	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科部門	2,000,000	補委	厚生労働省
家族性地中海熱の病態解明と治療指針の確立	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科部門	600,000	補委	厚生労働省
中條-西村症候群の疾患概念の確立と病態解明に基づく特異的治療法の開発	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科部門	3,300,000	補委	厚生労働省
TNF受容体関連周期性症候群(TRAPS)の病態の解明と診断基準作成に関する研究	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科部門	1,200,000	補委	厚生労働省
肝再生における上皮間葉転換(EMT)の病態生理学的な意義	桑原 礼一郎	消化器内科	1,560,000	補委	文部科学省
炎症性腸疾患におけるTL1Aの役割について	竹田津 英稔	消化器内科	1,820,000	補委	文部科学省
抗線維化遺伝子修飾血管内皮前駆細胞を用いた肝臓再生療法の開発	中村 徹	消化器内科	1,040,000	補委	文部科学省
iPS細胞を用いた肝細胞癌に対する血管新生抑制遺伝子治療のベクター細胞作成の試	鳥村 拓司	消化器内科	2,080,000	補委	文部科学省
日本人クローン病のバイオマーカーの確立	光山 慶一	消化器内科	1,300,000	補委	文部科学省
HCV IRES領域の遺伝子変異解析を用いたC型慢性肝炎治療効果予測法の確立	緒方 啓	消化器内科	650,000	補委	文部科学省
ラットTNBS大腸炎モデルの確立とMIF-ASおよびMIF-siRNA /SPG複合体の局所投与の有用性の評価	光山 慶一	消化器内科	6,000,000	補委	(独)医薬基盤研究所
酸化アルブミン制御による肝発癌抑制効果の検討	佐田 通夫	消化器内科	1,200,000	補委	文部科学省
肝炎・肝硬変に対する抗ウイルス剤以外の治療法に関する研究	佐田 通夫	消化器内科	6,719,000	補委	厚生労働省
肝炎・肝硬変に対する抗ウイルス剤以外の治療法に関する研究	井出 達也	消化器内科	300,000	補委	厚生労働省
肝癌早期発見を目的とした分子マーカーおよび画像診断システムの開発	佐田 通夫	消化器内科	2,700,000	補委	厚生労働省
肝がんの新規治療法に関する研究	佐田 通夫	消化器内科	2,000,000	補委	厚生労働省
肝炎ウイルス感染状況・長期経過と予後調査及び治療導入対策に関する研究	鳥村 拓司	消化器内科	1,500,000	補委	厚生労働省
血小板低値例へのインターフェロン治療法の確立を目指した基礎及び臨床的研究	井出 達也	消化器内科	800,000	補委	厚生労働省
慢性腎不全における心血管病発症の分子機構:血管内皮機能の視点から	今泉 勉	心臓・血管内科	6,370,000	補委	文部科学省:科学研究費補助金
マスターサイトカインを標的とした細胞老化制御と革新的な大動脈瘤治療法の開発	青木浩樹	循環器病研究所	7,000,000	補委	文部科学省:科学研究費補助金
生活習慣病における運動と栄養指導の酸化ストレス改善効果	吉田典子	健康スポーツ科学センター	1,560,000	補委	文部科学省:科学研究費補助金

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
心不全の新しい発症機構に関する研究: シグナル制御因子SOCS3の役割	安川秀雄	循環器病センター	1,820,000	補委	文部科学省: 科学研究費補助金
口腔内細菌をターゲットとした急性冠症候群の新しい治療法開発	佐々木健一郎	心臓・血管内科	1,040,000	補委	文部科学省: 科学研究費補助金
心筋-血管クロストークの解析: 前高血圧期への介入による高血圧発症予防の分子機序	甲斐久史	心臓・血管内科	1,430,000	補委	文部科学省: 科学研究費補助金
尿中ナトリウム排泄とメタボリック症候群進展の疫学的考察	平井祐治	心臓・血管内科	1,690,000	補委	文部科学省: 科学研究費補助金
医療従事者の職場における活性・再生を目指したメンタルヘルス対策に関する検討	豊増功次	健康スポーツ科学センター	2,400,000	補委	文部科学省: 科学研究費補助金
持続的潜在性心筋障害は一般健常集団における心血管リスクとなるのか?	新山 寛	心臓・血管内科	1,690,000	補委	文部科学省: 科学研究費補助金
一般健常集団における心血管リスクとしての血小板・内皮マイクロパーティクル	安岡 逸	心臓・血管内科	1,950,000	補委	文部科学省: 科学研究費補助金
安静時心拍数がメタボリック症候群を進展させるかの疫学的研究	佐藤 晃	高度救命救急センター	1,820,000	補委	文部科学省: 科学研究費補助金
内皮由来マイクロパーティクルと内皮障害～血中バイオマーカーによる内皮機能評価法～	姉川敬裕	心臓・血管内科	2,080,000	補委	文部科学省: 科学研究費補助金
熱ショック蛋白と動脈硬化の関連を疫学的に解明する	村山恭子	心臓・血管内科	1,950,000	補委	文部科学省: 科学研究費補助金
メタボリック症候群に関連する血清vaspinの疫学的重要性	江崎英司	心臓・血管内科	1,820,000	補委	文部科学省: 科学研究費補助金
心不全の病態における樹状細胞の機能解析と、樹状細胞を標的とした心不全治療の研究	杉 雄介	心臓・血管内科	2,080,000	補委	文部科学省: 科学研究費補助金
IL-6系によるマクロファージ分化制御機構の解明と大動脈瘤治療法への応用	大野聡子	心臓・血管内科	2,340,000	補委	文部科学省: 科学研究費補助金
敗血症性心不全に対する心筋細胞保護の分子機構-サイトカインシグナル制御の視点から	二又誠儀	心臓・血管内科	2,080,000	補委	文部科学省: 科学研究費補助金
動脈管の器質的閉鎖における分子機構解明と治療標的分子の同定	梶本英美	循環器病研究所	1,300,000	補委	文部科学省: 科学研究費補助金
難治性心血管病の分子機序解明と新規治療法開発のための研究拠点形成	今泉 勉	心臓・血管内科	64,000,000	補委	文部科学省: 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
特発性心筋症に関する調査研究班	今泉 勉	心臓・血管内科	1,100,000	補委	厚生労働省: 科学研究費補助金「難治性疾患克服研究」
循環器内科におけるうつ病と睡眠障害に関する観察研究	大内田昌直	心臓・血管内科	500,000	補委	厚生労働省: 科学研究費補助金「こころの健康科学研究事業」
大動脈瘤低侵襲治療のための革新的ハイブリッドデバイスシステムの開発	青木浩樹	循環器病研究所	25,000,000	補委	独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構: 若
インスリン抵抗性改善薬は2型糖尿病患者における動脈硬化の炎症を改善させる～18FDG-PET/CTでの検討～	溝口ミノリ	心臓・血管内科	1,000,000	補委	木村記念循環器財団: 第11回バイエル「臨床血管機能」研究助成 優秀研究
30年に亘る一般住民検診から血清NAG活性と脳血管死との関連性の検討	吉川邦子	心臓・血管内科	1,000,000	補委	大和証券ヘルス財団: 平成22年度第37回調査研究助成
糖尿病性腎症の病態解明と新規治療法確立のための評価法の開発	奥田誠也 (研究分担)	腎臓内科	500,000	補委	厚生労働省
心腎連関における非対称性ジメチルアルギニンの役割の解明	上田誠二	腎臓内科	910,000	補委	日本学術振興会
RAGEをターゲットとした糖尿病性腎症・RPGNの新規治療法の開発	深水 圭	腎臓内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
進行性腎障害におけるSOCSの役割の解明	小池清美	腎臓内科	910,000	補委	文部科学省
CKD診察における新たなバイオマーカーの確立	藤見綾子	腎臓内科	1,430,000	補委	文部科学省
メタボリック症候群におけるCKD発症の分子基盤の解明	奥田誠也	腎臓内科	1,950,000	補委	日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
睡眠障害患者のQOLを改善するための科学的根拠に基づいた診断治療技術の開発	内村直尚	神経精神医学	3,500,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金：障害者対策総合研究事業(三島和夫班)
自殺のハイリスク者の実態解明及び自殺予防に関する研究	内村直尚	神経精神医学	1,500,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金：こころの健康科学研究事業(伊藤弘人班)
健康づくりのための休養や睡眠の在り方に関する研究	内村直尚	神経精神医学	1,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金：循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業(兼板佳孝班)
血小板低値例のインターフェロン治療法への確立を目指した基礎および臨床的研究	内村直尚	神経精神医学	800,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金：肝炎等克服緊急対策事業(西口修平班)
夜型両親の遅寝改善にみる乳幼児の生活リズム安定と心身の健康を導く研究	内村直尚	神経精神医学	20,000	補委	文部科学省科学研究費補助金：挑戦的萌芽研究(新小田春美班)
睡眠医療における医療機関連携ガイドラインの有効性検証に関する研究	内村直尚	神経精神医学	500,000	補委	厚生労働省精神・神経疾患研究開発費(清水徹男班)
心理的ウェルビーイング 多施設共同研究	内村直尚	神経精神医学	100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金：基盤研究(B)(津田 彰班)
多面的高次脳機能解析システムによる認知機能障害の診断と治療法	森田喜一郎	神経精神医学	650,000	補委	文部科学省科学研究費補助金：基盤研究(C)
地域における認知症の早期発見と予防：視覚認知機能を指標として	森田喜一郎	神経精神医学	1,000,000	補委	鈴木謙三記念 財団法人 医科学応用研究財団研究助成金
大規模災害や犯罪被害等による精神疾患の実態把握と介入手法の開発に関する研究	前田正治	神経精神医学	450,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金：こころの健康科学研究事業(金 吉晴班)
抗うつ薬への反応性を早期に予測する睡眠指標の同定と効率的なうつ病治療法の開発	土生川光成	神経精神医学	2,990,000	補委	文部科学省科学研究費補助金：基盤研究(C)
精神疾患関連分子である代謝型グルタミン酸受容体5の活性調節機構の解明	上松 謙	神経精神医学	2,340,000	補委	文部科学省科学研究費補助金：若手研究(B)
青年期の解離アセスメントの精緻化と心理療法への利用可能性の検討	舩田亮太	神経精神医学	1,001,000	補委	文部科学省科学研究費補助金：研究活動スタート支援
包括的な生物学的指標を用いた発達障害児の病態解明・治療法に関する研究	松石 豊次郎	小児科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)
小児神経伝達物質病の診断基準の作成と患者数の実態調査に関する研究	松石 豊次郎	小児科	800,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
レット症候群の診断と予防・治療法確立のための臨床および生物科学の集学的研究	松石 豊次郎	小児科	2,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
ライソゾーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究	芳野 信	小児科	1,700,000	補委	厚生労働省科学研究費
発達障害の精神科学的基盤の解明と治療法開発に関する研究	山下裕史朗	小児科	2,000,000	補委	精神・神経疾患研究開発費
機能的脳画像法による思春期やせ症の病態解明と治療に関する研究	永光信一郎	小児科	1,690,000	補委	科学研究費
Allagille症候群など遺伝性胆汁うっ滞性疾患の診断ガイドライン作成、実態調査並びに生体資料のバンク化に関する研究	木村 昭彦	小児科	1,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)
胆汁酸代謝異常症の遺伝子診断と内科的治療法の確立～肝移植回避を目指して～	水落 建輝	小児科	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費補助金(若手研究(B))
胎児不整脈の合併する心筋障害の評価法を開発し有効な胎内治療法を確立する	前野 泰樹	小児科	300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金 基盤(C)
自己抗体陽性女性の妊娠管理指針の作成及び新生児ループスの発症リスクの軽減に関する研究	前野 泰樹	小児科	1,170,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金
新生児痙攣様発作への集学的アプローチは脳障害を軽減するか？	岩田 欧介	小児科	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費補助金 基盤(C)
早期積極的静脈栄養は早期産児の発達を改善するか？“子宮外発育遅延”撲滅に向けて	岩田 幸子	小児科	650,000	補委	文部科学省科学研究費補助金 若手(B)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
MELASに対するL-アルギニン治療(AJA030/AJA001)の治験研究	古賀 靖敏	小児科	80,658,000	補委 日本医師会治験促進センター(治験推進研究事業)
治験の実施に関する研究[L-アルギニン]	古賀 靖敏	小児科	1,000,000	補委 日本医師会治験促進センター(治験推進研究事業)
ミトコンドリア病の治療薬開発	古賀 靖敏	小児科	1,000,000	補委 国立精神・神経センター(厚生労働省精神・神経委託費)
クワソ分子機構におけるミトコンドリアエネルギー代謝との関連	古賀 靖敏	小児科	1,950,000	補委 文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)
高精度の分子遺伝学的評価による食道癌治療成績向上のための包括的研究	藤田博正	外科	1,300,000	補委 文部科学省
大腸癌に対するメトロニック化学療法における循環血管内皮前駆細胞の意義	緒方 裕	外科	260,000	補委 文部科学省
ヒト大腸癌の再発・転移におけるclaudin-1の機能解析と治療戦略	衣笠哲史	外科	1,430,000	補委 文部科学省
癌化学療法と細胞免疫療法との相乗効果に関する研究	唐 宇飛	外科	1,170,000	補委 文部科学省
低位直腸がん手術における肛門温存療法の開発に関する研究	白水和雄	外科	1,200,000	補委 国立がん研究センター
血管内皮前駆細胞移植による血管新生療法に対するShh遺伝子治療の併用効果	岡崎悌之	外科	1,950,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
糖尿病患者における心血管イベント発症に関する後ろ向きコホートに関する研究	有永康一	外科	200,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
「難治性疾患脊柱靭帯骨化症の治療標的分子の発見と画期的診断・治療法の開発」	永田見生	整形外科	9,000,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服事業
「骨粗鬆症椎体骨折に対する低侵襲治療法の開発」	永田見生	整形外科	700,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金長寿科学総合研究事業
腰痛の診断・治療に関する研究「腰部脊柱管狭窄症の診断・治療法の開発」	永田見生	整形外科	800,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金長寿科学総合研究事業
難病、頸椎後縦靭帯骨化症特異的タンパク質の発見とそのメカニズムの解明	永田見生	整形外科	637,000	補委 文部科学省研究費補助金
膝靭帯再建における正常の骨-靭帯移行部再現に必要な術式および生物活性物質の研究	副島 崇	整形外科	819,000	補委 文部科学省研究費補助金
新規ペプチドOBAPの生理活性の検討	福嶋信広	整形外科	1,547,000	補委 文部科学省研究費補助金
多発性神経線維腫瘍発生メカニズムの検索	清川 兼輔	形成外科・顎顔面外科	650,000	補委 文部科学省:科学研究費補助金
本人の音声記録による代用音声の開発と音声獲得	井上 要二郎	形成外科・顎顔面外科	400,000	補委 文部科学省:科学研究費補助金
フェコフローメトリーによる排便機能障害の診断と漢方治療効果判定	八木 実	小児外科	910,000	補委 文部科学省科学研究費基盤C
Rac1とNADPHオキシダーゼ阻害による網膜色素変性モデルの視細胞保護効果	春田 雅俊	眼科学	1,599,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
未だに未同定であるIEN型IgA天疱瘡と抗p200類天疱瘡の抗原解析	橋本 隆	皮膚科	4,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会:科学研究費補助金
角化細胞の分化におけるプラキン・ファミリー分子の関与:新たな癌治療への基礎的研究	辛島 正志	皮膚科	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会:科学研究費補助金
抗ラミニン γ 1類天疱瘡の病態の直接証明	上田 明弘	皮膚科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会:科学研究費補助金
難治性特定克服研究事業稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	橋本 隆	皮膚科	4,000,000	補委 平成22年度厚生労働省科学研究費補助金
さまざまな類天疱瘡の疾患群の抗原の詳細な解析と新しい検査法の開発による診断基準の作成	橋本 隆	皮膚科	17,250,000	補委 平成22年度厚生労働省科学研究費補助金
家族性良性慢性天疱瘡(Hailey-Hailey病)の診断基準作成とATP2C1遺伝子解析に関する研究	橋本 隆	皮膚科	17,250,000	補委 平成22年度厚生労働省科学研究費補助金
高感受性悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	嘉村 敏治	産婦人科	4,000,000	補委 厚生労働省

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
化学療法先行治療を進行卵巣がんの標準治療とするための研究	嘉村 敏治	産婦人科	1,000,000	補委	厚生労働省
婦人科領域の稀少がんに対する標準的治療法の確立に関する研究	嘉村 敏治	産婦人科	1,200,000	補委	厚生労働省
卵巣癌に対するpolysomal RNA vaccineの開発	津田尚武	産婦人科	260,000	補委	文部科学省
早期の癌に対する標準的放射線治療方法の確立のための臨床試験	早瀬尚文	放射線科	455,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
胃悪性リンパ腫の予防と治療に関する基礎的および臨床的研究	早瀬尚文	放射線科	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
食道癌のPET/CTによる治療効果判定の分子病理学的検討	石橋正敏	放射線科	1,040,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
STIR法、拡散強調画像併用MRIを用いた肺癌並びにリンパ節転移診断	藤本公則	画像診断センター	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
IVRIにおける被曝低減に関する実践的研究	安陪等思	画像診断センター	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
PET/CTと高分解能心臓CTでの不安定プラークの検出とサイトカインの関連	甲斐田勇人	放射線科	1,950,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
マルチリンパ腫における末梢血腫瘍マーカーの検討	末藤大明	放射線科	780,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
HER2陽性乳癌における免疫学的解析-免疫学的治療戦略の有効性についての検討	関 直子	歯科口腔医療センター	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
フラボン誘導体Factor-Xの生物学的活性(抗腫瘍・抗ウイルス効果)の検討	青木 将虎	歯科口腔医療センター	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費(若手研究B)
口腔癌における癌抗原ペプチドを用いた個別腫瘍抑制戦略	山手 智津	歯科口腔医療センター	1,040,000	補委	文部科学省科学研究費(若手研究B)
循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究 ドクターヘリによる循環器疾患の救命率向上についての研究	坂本 照夫	高度救命救急センター	300,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金
形態形成・維持・再生の基盤となる組織・細胞のナノ構造解析	中村桂一郎	顕微解剖	78,399,300	補委	文部科学省 私立大学教育研究装置・研究設備補助金
発達障害に対する神経内分泌ホルモン「グレリン」の関与とその治療効果	西 芳寛	生理学(脳神経)	1,950,000	補委	平成22年度 科学研究費補助金(基盤研究(C))
Rett症候群モデルiPS細胞による病態メカニズムの解明と移植再生治療法の開発	岡部 泰典	生理学(脳神経)	2,500,000	補委	平成22年度 科学研究費補助金(若手研究(B))
HTLV-I 遺伝子(HBZ, tax)のATLL腫瘍発生・臨床病理への関与の解明	大島 孝一	病理学	3,770,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
がん診療を標準化するための病理学的診断基準の確立と普及、ならびに全国的な病理診断精度保証システムの構築に関する研究 ・免疫染色・FISHの精度管理システム構築	大島 孝一	病理学	1,300,000	補委	独立行政法人 国立がん研究センター
小児難治性疾患における病理診断の標準化およびデータベースの構築とその有効利用・小児造血器疾患の病理診断	大島 孝一	病理学	1,000,000	補委	独立行政法人 国立成育医療研究センター
中枢神経原発性リンパ腫の腫瘍発生におけるケモカインおよびEBウイルスの役割	杉田 保雄	病理学	650,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
成人T細胞白血病ウイルス1型関連肝炎の疾患概念の確立	新野 大介	病理学	1,690,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
輸血副作用の原因遺伝子ハプトグロビン欠失アレルの迅速簡便な診断法の確立と輸血前診断への臨床応用に関する研究	神田 芳郎	法医学・人類遺伝学	3,500,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
肝炎・肝硬変に対する抗ウイルス剤以外の治療法に関する研究	長尾由実子	消化器疾患情報講座	500,000	補委	厚生労働省
肝炎・肝硬変に対する抗ウイルス剤以外の治療法に関する研究	川口 巧	消化器疾患情報講座	300,000	補委	厚生労働省
ウイルス性肝炎に対する応答性を規定する宿主因子を含めた情報のデータベース構築・治療応用に関する研究	長尾由実子	消化器疾患情報講座	0	補委	厚生労働省

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
肝発癌抑制を視野に入れた肝硬変の栄養ガイドライン作成を目指した総合研究	川口 巧	消化器疾患情報講座	0	補委	厚生労働省
口腔粘膜疾患とC型肝炎のインスリン抵抗性についての検討-歯科医師の役割を含めて	長尾由実子	消化器疾患情報講座	1,950,000	補委	文部科学省
インスリン抵抗性のBMPs誘導肝癌上皮間葉移行における細胞生物学的意義	川口 巧	消化器疾患情報講座	1,690,000	補委	文部科学省
酸化アルブミン制御による肝発癌抑制効果の検討	川口 巧	消化器疾患情報講座	200,000	補委	文部科学省
がんワクチングノミクスに基づくがんワクチン適格性予測診断キット及びがんワクチン副作	伊東 恭悟	免疫・免疫治療学講座	30,837,000	補委	文部科学省地域産学官連携科学技術振興事業補助金イ
癌ペプチドワクチンの開発に向けた癌抗原遺伝子クローニングとペプチド同定	伊東 恭悟	免疫・免疫治療学講座	15,000,000	補委	私立大学ハイテクリサーチ整備事業
がんワクチン療法標準化の基盤研究	伊東 恭悟	免疫・免疫治療学講座	3,700,000	補委	学術研究振興資金
HLA-A26陽性がん患者に対するペプチドワクチン療法の基盤的研究	七條 茂樹	免疫・免疫治療学講座	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
上皮間葉移行(EMT)を起した幹細胞様癌細胞を標的とした新しい免疫療法の開発	笹田 哲朗	免疫・免疫治療学講座	1,200,000	補委	久留米大学石橋学術振興基金 石橋助成金
上皮間葉移行(EMT)を起した幹細胞様癌細胞を標的とした新しい免疫療法の開発	笹田 哲朗	免疫・免疫治療学講座	1,230,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
癌ワクチン療法における予後予測に有用な新しいバイオマーカーの開発	笹田 哲朗	免疫・免疫治療学講座	1,500,000	補委	社団法人日本医師会平成22年度日本医師会医学研究助
癌ワクチン療法患者の予後予測に有用な新しいバイオマーカーの開発	笹田 哲朗	免疫・免疫治療学講座	700,000	補委	公益財団法人黒住医学研究振興財団 第18回研究助成
上皮間葉移行(EMT)を標的とした新しい癌抗原の同定と免疫療法の応用	笹田 哲朗	免疫・免疫治療学講座	2,000,000	補委	財団法人安田記念医学財団平成22年度がん研究助成金
上皮間葉移行(EMT)を標的とした新しい免疫療法の開発	笹田 哲朗	免疫・免疫治療学講座	2,000,000	補委	公益財団法人第一三共生命科学振興 第28回(平成22年度)研究助成
癌ワクチン治療の効果予測に有用な新しいバイオマーカーの開発	笹田 哲朗	免疫・免疫治療学講座	500,000	補委	財団法人大阪癌研究会 平成22年度一般学術研究助成
肺がん、肝臓がん及び膀胱がん症例に対するテーラーメイドがんペプチドワクチン療法の実用化研究	野口 正典	先端癌治療研究センター臨床研究部門	87,248,000	補委	文部科学省地域産学官連携科学技術振興事業補助金イノベーションシステム整備事業
前立腺がん患者免疫能のゲノム・エピゲノム解析	野口 正典	先端癌治療研究センター臨床研究部	1,700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
癌およびC型肝炎ウイルス感染症へのペプチドワクチン開発の基礎及び臨床研究	山田 亮	先端癌治療研究センターがんワクチン分子部門	15,000,000	補委	私立大学ハイテクリサーチセンター整備事業
C型肝炎ウイルスに対するペプチドワクチン開発の基盤的研究	山田 亮	先端癌治療研究センターがんワクチン分子部門	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合には「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
Arthritis Research & Therapy	2011年3月	Soluble interleukin-18 receptor complex is a novel biomarker in rheumatoid arthritis.	Aizawa H	呼吸器・神経・膠原病内科
Clinical Cancer Research	2011年3月	Phase I dose-escalation study and biomarker analysis of E7080 in patients with advanced solid tumors.	Yamada K	呼吸器・神経・膠原病内科
Modern Rheumatology	2010年12月	Long-term follow-up of adalimumab monotherapy for rheumatoid arthritis in Japanese patients: a report of six cases.	Ida H	呼吸器・神経・膠原病内科
European Respiratory Journal	2010年12月	Periostin, a matrix protein, is a novel biomarker for idiopathic interstitial pneumonias.	Aizawa H	呼吸器・神経・膠原病内科
Parkinsonism & Related Disorders	2010年12月	Lack of association of dairy food, calcium, and vitamin D intake with the risk of Parkinson's disease: A case-control study in Japan.	Tanaka K	呼吸器・神経・膠原病内科
Rheumatology International	2010年12月	Clinical, serologic and magnetic resonance imaging of 3 cases of inflammatory myopathy with abundant macrophages in the Japanese population.	Ida H	呼吸器・神経・膠原病内科
Modern Rheumatology	2010年11月	Contribution of an adenine to guanine single nucleotide polymorphism of the matrix metalloproteinase-13 (MMP-13) -77 promoter region to the production of anticyclic citrullinated peptide antibodies in patients with HLA-DRB1*shared epitope-negative rheumatoid arthritis.	Ida H	呼吸器・神経・膠原病内科
Internal Medicine	2010年11月	Elevated levels of thioredoxin 1 in the lungs and sera of idiopathic pulmonary fibrosis, non-specific interstitial pneumonia and cryptogenic organizing pneumonie.	Aizawa H	呼吸器・神経・膠原病内科
Cancer Science	2010年11月	Innovator and generic cisplatin formulations: comparison of renal toxicity.	Yamada K	呼吸器・神経・膠原病内科
Internal Medicine	2010年10月	Efficacy and safety of mizoribine by one single dose administration for patients with rheumatoid arthritis.	Ida H	呼吸器・神経・膠原病内科
Japanese Journal of Radiology	2010年7月	Preliminary study of positron emission tomography/computed tomography and plasma osteopontin levels in patients with asbestos-related pleural disease.	Aizawa H	呼吸器・神経・膠原病内科
Gastroenterology	2010年4月	Gender dimorphic formation of mouse Mallory-Denk bodies and the role of xenobiotic metabolism and oxidative stress.	Hanada S	消化器内科
Hepatology Research	2010年6月	Peginterferon-alpha-2b plus ribavirin therapy in patients with chronic hepatitis C as assessed by a multi-institutional questionnaire in Japan.	Ide T	消化器内科
Journal of Gastroenterology and Hepatology	2010年6月	Long-term results of balloon-occluded retrograde transvenous obliteration for gastric fundal varices: hepatic deterioration links to portosystemic shunt syndrome.	Kumamoto M	消化器内科
Molecular Medicine Reports	2010年7月	Redox state of albumin is not associated with colloid osmotic pressure.	Sakata M	消化器内科
International Journal of Molecular Medicine	2010年8月	HCC develops even in the early stage of chronic liver disease in elderly patients with HCV infection.	Takata A	消化器内科
Alimentary Pharmacology & Therapeutics	2010年8月	Intra-arterial therapy with cisplatin suspension in lipiodol and 5-fluorouracil for hepatocellular carcinoma with portal vein tumour thrombosis.	Nagamatsu H	消化器内科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
Reviews on Recent Clinical Trials	2010年9月	The pathogenesis, complications and therapeutic strategy for hepatitis C virus-associated insulin resistance in the era of anti-viral treatment.	Kawaguchi T	消化器内科
Hepatology Research	2010年9月	Adipocytokine involvement in hepatocellular carcinoma after sustained response to interferon for chronic hepatitis C.	Fukushima N	消化器内科
Exp Therap Medicine	2010年9月	Characteristic expression pattern of oxidative stress in livers with cryptogenic hepatocellular carcinoma.	Fukushima N	消化器内科
Hepatology International	2010年10月	Evaluation of long-term entecavir treatment in stable chronic hepatitis B patients switched from lamivudine therapy.	Ide T	消化器内科
Hepatology Research	2010年10月	Recent progress in the management of hepatocellular carcinoma detected during a surveillance program in Japan.	Nakano M	消化器内科
e-SPEN, the European e-Journal of Clinical Nutrition and Metabolism	2010年12月	Oxidized albumin is associated with water retention and severity of disease in patients with chronic liver diseases.	Sakata M	消化器内科
Hepato-gastroenterology	2011年1月	Serum level of free fatty acids is associated with nocturnal hypoglycemia in cirrhotic patients with HCV infection: a pilot study.	Kawaguchi T	消化器内科
Hepatology Research	2011年3月	Do the national survey results reflect the state of drug-induced liver injury in a single local city in which there is no hospital having Members of the Board of Councilors of the Japan Society of Hepatology ? Results of a questionnaire survey conducted in a local city.	Hisamochi A	消化器内科
Neoplasia	2011年3月	Metronomic S-1 chemotherapy and vandetanib: an efficacious and nontoxic treatment for hepatocellular carcinoma.	Iwamoto H	消化器内科
Journal of Medical Internet Research	2010年4月	Positive association of serum levels of pigment epithelium-derived factor with high-sensitivity C-reactive protein in apparently healthy unmedicated subjects.	Umei H	心臓・血管内科
Basic Research in Cardiology	2010年5月	Mesenchymal stem cell-based prostacyclin synthase gene therapy for pulmonary hypertension rats.	Takemiya K	心臓・血管内科
Oxidative Medicine and Cellular Longevity	2010年7月	Insulin resistance is an independent correlate of high serum levels of advanced glycation end products (AGEs) and low testosterone in non-diabetic men.	Tahara N	心臓・血管内科
Cardiovascular Therapeutics	2010年7月	Serum Levels of Advanced Glycation End Products (AGEs) are Independent Correlates of Insulin Resistance in Nondiabetic Subjects.	Tahara N	心臓・血管内科
Clinical Cardiology	2010年9月	The p66shc gene expression in peripheral blood monocytes is increased in patients with coronary artery disease.	Noda Y	心臓・血管内科
American Journal of Hypertension	2010年10月	High level of plasma endothelin-1 predicts development of hypertension in normotensive subjects.	Kumagae Y	心臓・血管内科
JACC. Cardiovascular Imaging	2010年12月	Heterogeneous myocardial FDG uptake and the disease activity in cardiac sarcoidosis.	Tahara N	心臓・血管内科
Clinical Research in Cardiology	2011年1月	Early outgrowth EPCs generation is reduced in patients with Buerger's disease.	Katsuki Y	心臓・血管内科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertension Research Epub.	2011年1月	Enhanced cardiac inflammation and fibrosis in ovariectomized hypertensive rats: a possible mechanism of diastolic dysfunction in postmenopausal women.	Mori T	心臓・血管内科
Heart and Vessels Epub.	2011年2月	Long-term results of the maze procedure on left ventricular function for persistent atrial fibrillation associated with mitral valve disease.	Fukuda Y	心臓・血管内科
Cardiovascular Therapeutics Epub.	2011年2月	Serum Levels of Advanced Glycation End Products (AGEs) are Inversely Associated with the Number and Migratory Activity of Circulating Endothelial Progenitor Cells in Apparently Healthy Subjects.	Ueda S	心臓・血管内科
American Journal of Pathology	2011年2月	Administration of pigment epithelium-derived factor inhibits left ventricular remodeling and improves cardiac function in rats with acute myocardial infarction.	Ueda S	心臓・血管内科
Clinical Cardiology	2011年3月	High White Blood Cell Count and Low Estimated Glomerular Filtration Rate Are Independently Associated With Serum Level of Monocyte Chemoattractant Protein-1 in a General Population .	Fukami A	心臓・血管内科
Hypertension Research	2011年3月	Simvastatin prevents large blood pressure variability induced aggravation of cardiac hypertrophy in hypertensive rats by inhibiting RhoA/Ras-ERK pathways.	Takayama N	心臓・血管内科
International Journal of Cardiology	2011年3月	Reduction and activation of circulating dendritic cells in patients with decompensated heart failure.	Sugi Y	心臓・血管内科
Clinical and Experimental Phamacology and physiology	2010年9月	Interstitial Foxp3-positive T cells may predict renal survival in patients with myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated glomerulonephritis.	Yoshimura J	腎臓内科
American Journal of Nephrology	2010年11月	Association of Asymmetric Dimethylarginine with Severity of Kidney Injury and Decline in Kidney Function in IgA Nephropathy .	Fujimi A	腎臓内科
Current Molecular Medicine	2010年4月	Development of Enzyme-Linked Immunosorbent Assay System for PEDF and its Clinical Utility.	Fukami K	腎臓内科
Journal of Nephrology	2010年7月	New pathways to renal damage:role of ADMA in retarding renal disease	Ueda S	腎臓内科
Current Molecular Medicine	2010年4月	Anti-Vasopermeability Effects of PEDF in Retinal-renal Disorders.	Ueda S	腎臓内科
Psychiatry and Clinical Neurosciences	2010年2月	Effects of emotionally charged sounds in schizophrenia patients using exploratory eye movements: comparison with healthy subjects.	Kiichiro Morita	高次脳疾患研究所
Psychogeriatrics	2010年9月	Characteristics of exploratory eye movements in elderly people: Possibility of early diagnosis of dementia.	Kiichiro Morita	高次脳疾患研究所
Sleep Medicine	2010年6月	Effect of CPAP treatment on residual depressive symptoms in patients with major depression and coexisting sleep apnea: Contribution of daytime sleepiness to residual depressive symptoms.	Mitsunari Habukawa	精神神経科
Pediatrics International	2010年6月	Attitude to extended use and long-term storage of newborn screening blood spots in Japan.	Yoshino M	小児科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Medical Case Reports	2010年11月	Female heterozygotes for the hypomorphic R40H mutation can have ornithine transcarbamylase deficiency and present in early adolescence: a case report and review of the literature.	Yoshino M	小児科
Clinical Genetics	2010年10月	Familial Simpson-Golabi-Behmel syndrome: Studies of X-chromosome inactivation and clinical phenotypes in two female individuals with GPC3 mutations.	Yano S	小児科
Brain & Development	2010年11月	A familial case of LEOPARD syndrome associated with a high-functioning autism spectrum disorder.	Matsuishi T	小児科
J Human Genetics	2010年10月	Mutation analysis of the SHOC2 gene in Noonan-like syndrome and in hematologic malignancies.	Watanabe Y	小児科
Translational Research	2010年9月	Effects of long-term zinc treatment in Japanese patients with Wilson disease: efficacy, stability, and copper metabolism.	Yoshino M	小児科
Brain & Development	2011年1月	A long-term survival case of arginase deficiency with severe multicystic white matter and compound mutations.	Yoshino M	小児科
Brain & Development	2011年3月	Sumeer treatment program for children with attention deficit hyperactivity disorder: Japanese experience in 5 years.	Yamashita Y	小児科
Brain & Development	2010年9月	Comparison of the strengths and difficulties questionnaire (SDQ) scores between children with high-functioning autism spectrum disorder (HFASD) and attention-deficit/hyperactivity disorder (AD/HD).	Iizuka C	小児科
Pediatric Research	2010年9月	Molecular Genetic and Bile Acid Profiles in Two Japanese Patients With 3β -Hydroxy- Δ^5 -C27-Steroid Dehydrogenase/Isomerase Deficiency.	Mizuochi T	小児科
Pediatrics International	2011年2月	Liver biopsy is an important procedure in the diagnosis of Glycogen storage disease type IV.	Mizuochi T	小児科
日本門脈圧亢進症学会雑誌	2010年6月	小児肝前性門脈圧亢進症の診断と治療—過去8年間で経験した自験例の臨床経過と共に—	松下 優美	小児科
Clinical Endocrinology	2011年3月	Levothyroxine replacement therapy and refractory hypotension out of transitional period in preterm infants.	Okada J	小児科
International Journal of Developmental Neuroscience	2011年2月	Determinants of sleep patterns in healthy Japanese 5-year-old children.	Iwata S	小児科
International Journal of Developmental Neuroscience	2010年11月	Subtle white matter injury is common in term-born infants with a wide range of risks.	Iwata S	小児科
Archives of Disease in Childhood	2010年6月	Determinants of outcomes following acute child encephalopathy and encephalitis: pivotal effect of early and delayed cooling.	G Kawano	小児科
日本周産期・新生児医学会雑誌	2010年12月	家族の意見をもとにした18 trisomyの在宅管理に必要なサポートの検討。	廣瀬 彰子	小児科
The New York Academy of Sciences	2010年7月	MELAS and L-arginine therapy—pathophysiology of stroke-like episodes—	Koga Y	小児科
日本臨床外科学会雑誌	2010年9月	Pseudo-Meigs症候群を呈した直腸癌異時性卵巣転移の1例。	村上英嗣	外科
Annals of Surgical Oncology	2010年4月	Is Total Mesorectal Excision Always Necessary for T1-T2 Lower Rectal Cancer?	Hirotohi Kobayash	外科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
Digestion	2010年	Challenges in Staging Systems for Colorectal Cancer: Clinical Significance of Metastatic Lymph Node Number in Colorectal Cancer and Mesorectal Extension in Rectal Cancer.	Yoshito Akagi	外科
日本大腸肛門病学会雑誌	2010年7月	潰瘍性大腸炎の手術症例の解析—樹形モデルによる癌合併危険因子の検討—	衣笠哲史	外科
日本大腸肛門病学会雑誌	2010年7月	Pseudo-Meigs症候群を呈したS状結腸癌両側卵巢転移の1例。	村上英嗣	外科
日本消化器外科学会雑誌	2010年7月	胃全摘術、低位前方切除に使用されるディスプレイザブル手術材料使用実態に関する多施設調査。	孝富士喜久生	外科
Molecular Cancer Therapeutics	2010年6月	Bortezomib Sensitizes Human Esophageal Squamous Cell Carcinoma Cells to TRAIL-Mediated Apoptosis via Activation of Both Extrinsic and Intrinsic Apoptosis	Naoko Seki	外科
Surgery Today	2010年9月	Suppressive Effect of Bevacizumab on Peritoneal Dissemination from Gastric Cancer in a Peritoneal Metastasis Model.	Takuya Imaizumi	外科
Diseases of the Esophagus	2010年8月	Surgical management for small cell carcinoma of the esophagus.	T.Tanaka	外科
外科学会雑誌	2011年2月	食道癌根治的化学放射線療法後の再発に腹部リンパ節郭清術を施行した2例。	的野 吾	外科
ANTICANCER RESEARCH	2010年8月	Increased Claudin-1 Protein Expression Contributes to Tumorigenesis in Ulcerative Colitis-associated Colorectal Cancer.	Tetsushi Kinugasa	外科
日本消化器外科学会雑誌	2010年11月	食道癌に対する根治的化学放射線療法後のsalvage食道切除。	的野 吾	外科
日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌	2011年1月	当院での消化器緩和ストーマ造設の現状。	衣笠哲史	外科
日本大腸肛門病学会雑誌	2011年2月	キャンピロバクター腸炎39例の臨床的検討。	小篠洋之	外科
Journal of Gastroenterology	2011年2月	Characteristics of recurrence after curative resection for T1 colorectal cancer: Japanese multicenter study.	Hirotohi Kobayashi	外科
Diseases of the Esophagus	2010年11月	Outcomes of multimodality therapy for stage IVB esophageal cancer with distant organ metastasis (M1-Org).	T.Tanaka	外科
GASTROINTESTINAL ENDOSCOPY	2011年1月	Photodynamic therapy for large superficial squamous cell carcinoma of the	Toshiaki Tanaka	外科
Surgery Today	2011年1月	Selection of Pulmonary Resection Procedures to Reduce Postoperative Complications in 200 Patients	Yoshinori Nagamatsu	外科
Surgery Today	2011年1月	A Multicenter Phase II Clinical Study of Oxaliplatin, Folinic Acid, and 5-Fluorouracil Combination Chemotherapy as Second-Line Treatment for Advanced Colorectal Cancer: A Japanese Experience.	Yutaka Ogata	外科
Surgery Today	2011年1月	Selection of Pulmonary Resection Procedures to Reduce Postoperative Complications in 200 Patients.	Yoshinori Nagamatsu	外科
肝臓	2010年5月	肝硬変に対する脾摘を再考する その変遷と功罪。	緒方俊郎	外科
日本心臓血管外科学会雑誌	2010年5月	Mosaic生体弁による大動脈弁置換術後早期に生体弁機能不全を呈し再弁置換術を行った1例。	庄嶋賢弘	外科
Artificial Organs	2010年6月	Treatment for mechanical valve thrombosis in the right heart: combined pharmacological and mechanical thrombolysis.	S.Aoyagi	外科
Annals of Vascular Surgery	2010年7月	Spontaneous Dissection of the Iliac Artery in a Patient With Fibromuscular Dysplasia.	H.Akashi	外科
日本臨床外科学会雑誌	2010年7月	早期胆嚢管癌の1例。	赤須玄	外科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
久留米医学会雑誌	2010年8月	肝切除術後Surgical Site Infectionの現状と対策。	川原隆一	外科
Vascular and Endovascular Surgery	2010年11月	Non-permanent Inferior Vena Cava Filters for Prophylaxis and Treatment of Lower Limb Venous Thromboembolism.	S.Hiromatsu	外科
Heart and Vessels	2010年11月	Heart valve surgery in octogenarians: operative and long-term results.	S.Aoyagi	外科
Atherosclerosis	2011年1月	Hepatocyte growth factor promotes an anti-inflammatory cytokine profile in human abdominal aortic aneurysm tissue.	Y.Shintani	外科
日本心臓血管外科学会雑誌	2011年1月	Toyobo-LVASの慢性期抗凝固療法にPT-INR簡易測定装置が有用であった1例。	赤須晃治	外科
Journal of Spine Research	2010年6月	内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア摘出術の治療成績。	佐藤公昭	整形外科
The Journal of Orthopaedic Surgery	2010年4月	Use of autologous fibrin sealants to treat ganglion cysts: a report of two cases.	Nakama K.	整形外科
整形外科と災害外科	2010年12月	小児上腕骨外顆骨折の治療経験。	瓜生拓也	整形外科
Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery	2010年7月	Anatomical study of latissimus dorsi musculocutaneous flap vascular distribution.	Watanabe K	形成外科・顎顔面外科
創傷	2011年1月	腹部創感染・離開に対する創内持続陰圧洗浄療法の有用性。	西 由起子	形成外科・顎顔面外科
International Surgery	2010年10月	The herbal medicine daikenchuto ameliorates an impaired anorectal motor activity in postoperative pediatric patients with an anorectal malformation: a pilot study.	Takagi A	小児外科
Journal of Investigative Dermatology	2010年6月	A Homozygous Nonsense Mutation within the Dystonin Gene Coding for the Coiled-Coil Domain of the Epithelial Isoform of BPAG1 Underlies a New Subtype of Autosomal Recessive Epidermolysis Bullosa Simplex.	Groves R	皮膚科
Journal of the American Academy of Dermatology	2010年7月	Antidesmocollin-1 antibody-positive, antidesmoglein antibody-negative pemphigus herpetiformis.	Tateishi C	皮膚科
British Journal of Dermatology	2010年7月	Pruritic reddish-brown papules and plaques as initial skin lesions in a case of anti-laminin gamma1 pemphigoid without psoriasis.	Morimoto K	皮膚科
PLoS One	2010年8月	The Protease Inhibitor Alpha-2-Macroglobuline-Like-1 Is the p170 Antigen Recognized by Paraneoplastic Pemphigus Autoantibodies in Human.	Schepens I	皮膚科
British Journal of Dermatology	2010年12月	Development of a simple ELISA for the detection of autoantibodies in anti-p200 pemphigoid.	Groth S	皮膚科
Journal of Investigative Dermatology	2010年4月	How does intramolecular epitope spreading occur in BPAG2 (BP180)?	Hashimoto T	皮膚科
British Journal of Dermatology	2010年4月	A case of antilaminin 332 mucous membrane pemphigoid showing a blister on the bulbar conjunctiva and a unique epitope on the alpha3 subunit.	Hashimoto T	皮膚科
European Journal of Dermatology	2010年7月	Successful treatment with mycophenolate mofetil of four Japanese patients with pemphigus vulgaris.	Koga H	皮膚科
American Journal of Pathology	2010年12月	Autoimmunity to desmocollin 3 in pemphigus vulgaris.	Mao X	皮膚科
Journal of Oncology	2010年	Treatment for recurrent ovarian cancer - at first relapse.	Ushijima K	産婦人科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
Placenta	2010年5月	Dynamics of placental ghrelin production and its receptor expression in a Dahl salt-sensitive rat model of intrauterine growth restriction.	Nonoshita A	産婦人科
日本婦人科腫瘍学会雑誌	2010年4月	硬化療法が奏効した卵巣癌術後巨大リンパ嚢胞の1例。	園田裕子	産婦人科
日本周産期・新生児医学会雑誌	2010年8月	常位胎盤早期剥離において初発症状から治療開始までの時間が児の予後に与える影響に関する検討。	林龍之介	産婦人科
日本産科婦人科学会雑誌	2010年10月	子宮体癌における高単位プロゲステロンによる妊孕性温存療法—治療効果および安全性、その後の妊娠について、長期観察結果—	牛嶋公生	産婦人科
IVR会誌	2010年4月	Ehlers-Danlos syndrome IV型に合併した脾動脈の仮性動脈瘤に対してコイル塞栓術を施行した1例。	吉田成吾	放射線科
Clinical Nuclear Medicine	2010年7月	Glucose transporter expression of an esophageal gastrointestinal tumor detected by F-18 FDG PET/CT.	Hayato Kaida	放射線科
Japanese Journal of Radiology	2010年6月	Preliminary study of positron emission tomography/computed tomography and plasma osteopontin levels in patients with asbestos-related pleural disease.	Seiji Kurata	放射線科
Radiother Oncol	2010年10月	The clinical characteristics and non-steroidal treatment for radiation-induced bronchiolitis obliterans organizing pneumonia syndrome after breast-conserving therapy.	Etsuyo Ogo	放射線治療センター
Magnetic Resonance Imaging Clinics North America	2010年8月	Chronic Hepatitis and Cirrhosis on MR Imaging.	Tonan T	放射線科
久留米医学会雑誌	2010年6月	顎顔面補綴によるリハビリテーション。	古賀 千尋	歯科口腔医療センター
日本顎顔面インプラント学会誌	2010年12月	2次元骨延長装置を使用したインプラント治療の1例。	岩本 修	歯科口腔医療センター
日本腹部救急医学会雑誌	2010年11月	食道裂孔ヘルニアに胃潰瘍穿孔を合併し循環不全をきたした1例。	森 眞二郎	高度救命救急センター
日本看護学会論文集 母性看護	2011年2月3日	胎児および児の死に関わる助産師の思い。	白土佳津子	看護部
日本放射線技術学会雑誌	2010年11月	直接変換型FPDを搭載したデジタルX線透視撮影システムの画像特性と視覚評価の対応。	坂口 太郎	画像診断センター
日本放射線技術学会雑誌	2010年11月	正規化順位法による解像度や表示色が異なる医用画像表示用液晶ディスプレイの評価。	黒木 英郁	画像診断センター
Molecular cancer therapeutics	2010年6月	Bortezomib sensitizes human esophageal squamous cell carcinoma cells to TRAIL-mediated apoptosis via activation of both extrinsic and intrinsic apoptosis pathways.	Kage M	病院病理部
Cancer research.	2010年11月	Loss of PTEN expression by blocking nuclear translocation of EGFR1 in gefitinib-resistant lung cancer cells harboring epidermal growth factor receptor-activating mutations.	Kawahara A, Kage M	病院病理部
Clinical cancer research	2010年6月	Molecular diagnosis of activating EGFR mutations in non-small cell lung cancer using mutation-specific antibodies for immunohistochemical analysis.	Kawahara A, Kage M	病院病理部
Journal of Molecular Diagnostics	2011年5月	Rapid Detection of Haptoglobin-Gene Deletion in Alkaline-Denatured Blood by Loop-Mediated Isothermal Amplification Reaction.	Soejima M	法医学・人類遺伝学
日本輸血細胞治療学会誌	2011年2月	輸血副作用原因遺伝子ハプトグロビン欠失アレルの輸血前診断法の検討。	神田芳郎	法医学・人類遺伝学

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
Transfusion	2010年6月	Development and validation of a SYBR Green I-based real-time polymerase chain reaction method for detection of haptoglobin gene deletion in clinical materials.	Soejima M	法医学・人類遺伝学
Journal of Clinical Oncology	2010年3月	Phase I study of KW-0761, a defucosylated humanized anti-CCR4 antibody, in relapsed patients with adult T-cell leukemia-lymphoma and peripheral	Ooshima K	病理学
Pathology International	2010年4月	Infant juvenile myelomonocytic leukemia (JMML) with rapid infiltration of multiple organs.	Ooshima K	病理学
Journal of Neuro-Oncology	2010年11月	Epstein-Barr virus-associated primary central nervous system lymphomas in immunocompetent elderly patients: analysis for latent membrane protein-1 oncogene deletion and EBNA-2 strain typing.	Sugita Y	病理学
久留米医学会雑誌	2010年6月	神経上皮性腫瘍における神経幹細胞マーカーの発現とその意義。	杉田 保雄	病理学
Journal of Spine Research	2010年8月	Atlanto-axial jointに発生したsynovial cystの1手術例。	杉田 保雄	病理学
Pathology International	2010年4月	Ratio of M2 macrophage expression is closely associated with poor prognosis for Angioimmunoblastic T-cell lymphoma (AITL).	Niino D	病理学
Pathology International	2010年6月	Regression of rectal mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) lymphoma after antibiotic treatments.	Niino D	病理学
Medical Science Monitor	2010年4月	Aminofeel® improves the sensitivity to taste in patients with HCV-infected liver disease.	Nagao Y	消化器疾患情報講座
日本病態栄養学会誌	2010年4月	C型慢性肝疾患患者における疾患進行程度と栄養摂取状況。	川口 巧	消化器疾患情報講座
The Tohoku Journal of Experimental Medicine	2010年4月	Increasing muscle strength and mass of thigh in elderly people with the hybrid-training method of electrical stimulation and volitional contraction.	Kawaguchi T	消化器疾患情報講座
Hepatology Research	2010年9月	Adipocytokine involvement in hepatocellular carcinoma after sustained response to interferon for chronic hepatitis C.	Kawaguchi T	消化器疾患情報講座
Virology Journal	2010年8月	Dental problems delaying the initiation of interferon therapy for HCV-infected patients.	Nagao Y	消化器疾患情報講座
e-SPEN, the European e-Journal of Clinical Nutrition and Metabolism	2010年10月	Oxidized albumin is associated with water retention and severity of disease in patients with chronic liver diseases.	Kawaguchi T	消化器疾患情報講座
Virology Journal	2010年12月	Serum albumin and mortality risk in a hyperendemic area of HCV infection in Japan.	Nagao Y	消化器疾患情報講座
Radiology	2011年1月	Evaluation of the mean and entropy of apparent diffusion coefficient values in chronic hepatitis C: correlation with pathologic fibrosis stage and inflammatory activity grade.	Kawaguchi T	消化器疾患情報講座
Nutrition	2010年4月	Subjective global assessment is not sufficient to screen patients with defective hepatic metabolism.	Kawaguchi T	消化器疾患情報講座
Journal of Gastroenterology	2011年2月	Hybrid-training of voluntary and electrical muscle contractions reduces steatosis, insulin resistance and IL-6 levels in patients with NAFLD.	Kawaguchi T	消化器疾患情報講座

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
Placenta	2010年5月	Dynamics of placental ghrelin production and its receptor expression in a Dahl salt-sensitive rat model of intrauterine growth restriction .	Nonoshita A	産科・婦人科学教室(生理学講座)
Brain Research	2010年9月	Neural development of methyl-CpG-binding protein 2 null embryonic stem cells: A system for studying Rett syndrome.	Okabe Y	生理学講座 脳・神経機能部門
International Journal of Biomedical Soft Computing and Human Sciences	2010年10月	An ultradian rhythm of plantar subcutaneous temperature affects feeding activity in human neonates.	Nagata H	生理学講座 脳・神経機能部門
Neuropharmacology	2011年1月	Volatile anesthetic effects on isolated GABA synapses and extrasynaptic receptors.	Ogawa S	生理学講座 脳・神経機能部門
Regulatory Peptides	2011年1月	Plasma levels of n-decanoyl ghrelin, another acyl- and active-form of ghrelin, in human subjects and the effect of glucose- or meal-ingestion on its dynamics .	Yoh J	歯科・口腔医療センター(生理学講座)
The Journal of the Federation of American Societies for Experimental Biology	2011年1月	Connexon-mediated cell adhesion drives microtissue self-assembly .	Nishi Y	生理学講座 脳・神経機能部門
Cancer Science	2010年12月	Immunological evaluation of personalized peptide vaccination monotherapy in patients with castration-resistant prostate cancer.	Itoh K	免疫・免疫治療学講座
British Journal of Urology International	2010年12月	A phase I study of personalized peptide vaccination for advanced urothelial carcinoma patients who failed treatment with methotrexate, vinblastine, adriamycin and cisplatin.	Itoh K	免疫・免疫治療学講座
Journal of Clinical Oncology	2011年1月	Phase I trial of a personalized Peptide vaccine for patients positive for human leukocyte antigen--A24 with recurrent or progressive glioblastoma multiforme.	Itoh K	免疫・免疫治療学講座
Exp Ther Med	2010年	A β -tubulin 5-derived peptide can induce CTLs restricted to the HLA -A24 allele in prostate cancer patients.	Shichijyo S	免疫・免疫治療学講座
Clinical Cancer Research	2010年5月	Graft-versus-leukemia antigen CML66 elicits coordinated B-cell and T-cell immunity after donor lymphocyte infusion.	Sasada T	免疫・免疫治療学講座
Exp Ther Med	2010年7月	Prophylactic effect of peptide vaccination against hepatocellular carcinoma associated with hepatitis C virus.	Komatsu N	免疫・免疫治療学講座
Cancer Science	2010年10月	Evaluation of a new oil adjuvant for use in peptide-based cancer vaccination.	Yamada A	先端癌治療研究センターがんワクチン分子部門
Exp Ther Med	2011年	Phase-I clinical study of a personalized peptide vaccination available for six different HLA (HLA-A2, -A3, -A11, -A24, -A31, and -A33)-positive patients with advanced cancer.	Yamada A	先端癌治療研究センターがんワクチン分子部門
Oncology Reports	2011年1月	Characteristics of severe adverse events after peptide vaccination for advanced cancer patients: analysis of 500 cases.	Yamada A	先端癌治療研究センターがんワクチン分子部門
Cancer Immunol. Immunother.	2010年6月	A randomized phase II trial of personalized peptide vaccine plus low dose estramustine (EMP) versus standard dose EMP in patients with hormone refractory prostate cancer.	Noguchi M	先端癌治療研究センター臨床研究部門

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
Oncology Reports	2010年9月	A phase II study of personalized peptide vaccination combined with gemcitabine for non-resectable pancreatic cancer patients.	Noguchi M	先端癌治療研究センター臨床研究部門
Cancer Biology and Therapy	2011年1月	Assessment of immunological biomarkers in patients with advanced cancer treated by personalized peptide vaccination.	Noguchi M	先端癌治療研究センター臨床研究部門
Prostate	2010年9月28日	A phase I study of personalized peptide vaccination using 14 kinds of vaccine in combination with low-dose estramustine in HLA-A24-positive patients with castration resistant prostate cancer.	Noguchi M	先端癌治療研究センター臨床研究部門
Cancer Review	2010年	がんペプチドワクチンは効いているか？	伊東 恭悟	免疫・免疫治療学講座

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 中島 格		
管理担当者氏名	診療関係 各診療科部長(別紙1)	管理関係 事務部長	龍頭 充康

		保管場所	分類方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、 看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		各診療科の 医局資料室 病院資料室 セミアクティブカルテ室 診療情報管理室 外部倉庫	(入院)H15.4.1以降の診療諸記録に関して、診療記録はID番号を付与しターミナルデジット方式にて診療情報管理室で保管。X線写真は、各外来診療科・セミアクティブカルテ室・各医局資料室で保管。H15.3.31以前の診療諸記録に関しては、各科独自の管理番号付与方式にて医局資料室・外部倉庫にて保管。 (外来)最終受診日から1年以内の診療諸記録に関しては、ID番号を付与しターミナルデジット及び各科独自の管理番号を付与しセミアクティブカルテ室・各医局資料室・外部倉庫にて保管	
病院の管理及び 運営に関する諸 記録	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課		
	高度の医療の提供の実績	病院管理課		
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	病院管理課		
	高度の医療の研修の実績	病院管理課		
	閲覧実績	病院管理課		
	紹介患者に対する医療提供 の実績	病院管理課		
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳簿	病院経営室 及び薬剤部		
	第一則 第一号 第一條 に掲げ る十一 体制第一 項の各 号及び 第九條 の二十三 第一項	医療に係る安全管理のための 指針の整備状況		医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための 委員会の開催状況		管理課
		医療に係る安全管理のための 職員研修の実施状況		医療安全管理部 病院経営室
		医療機関内における事故報告等の 医療に係る安全の確保を目的と した改善のための方策の状況		医療安全管理部
		専任の医療に係る安全管理を 行う者の配置状況		医療安全管理部
		専任の院内感染対策を 行う者の配置状況		感染制御部
		医療に係る安全管理を行う 部門の設置状況		医療安全管理部
当該病院内に患者からの安全管理 に係る相談に適切に応じる体制の 確保状況		医療安全管理部		

管理担当者一覧

診療科	管理担当者氏名	診療科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌尿器科	松岡 啓
消化器内科	佐田 通夫	産婦人科	嘉村 敏治
心臓・血管内科	今泉 勉	眼科	山川 良治
腎臓内科	奥田 誠也	耳鼻咽喉科	中島 格
内分泌代謝内科	山田 研太郎	放射線科	早淵 尚文
血液内科	岡村 孝	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	内村 直尚	麻酔科	牛島 一男
小児科	松石 豊次郎	高度救命救急センター	坂本 照夫
外科	白水 和雄	呼吸器病センター	白水 和雄
	田中 啓之	消化器病センター	佐田 通夫
整形外科	永田 見生	循環器病センター	今泉 勉
形成外科	清川 兼輔	内科総合外来	山田 研太郎
脳神経外科	森岡 基浩	乳腺外科・一般外科総合外来	白水 和雄
小児外科	八木 実	薬剤部	佐田 通夫
皮膚科	橋本 隆		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び 運営に関する諸 記録	規則 第一 条の 十一 第一 項各 号及 び第 九条 の二 十三 第一 項第 一号 に掲 げる 体制 確保 の状 況	院内感染のための指針 の策定状況	久留米大学HP 感染関連マニュアル集
		院内感染対策のための 委員会の開催状況	管理課
		従業者に対する院内感 染対策のための研修の 実施状況	管理課
		感染症の発生状況の報 告その他の院内感染対 策の推進を目的とした改 善のための方策の実施 状況	管理課
		医薬品の使用に係る安 全な管理のための責任 者の配置状況	薬剤部長事務取扱
		従業者に対する医薬品 の安全使用のための研 修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のた めの業務に関する手順 書の作成及び当該手順 書に基づく業務の実施状 況	手順書…各部署 実施状況…薬剤部
		医薬品の安全使用のた めに必要となる情報の収 集その他の医薬品の安 全使用を目的とした改善 のための方策の実施状 況	手順書…各部署 実施状況…薬剤部
		医療機器の安全使用の ための責任者の配置状 況	医療機器管理責任者 坂本照夫 (臨床工学センター長)
		従業者に対する医療機 器の安全使用のための 研修の実施状況	臨床工学センター 画像診断センターA 放射線治療センター
		医療機器の保守点検に 関する計画の策定及び 保守点検の実施状況	臨床工学センター 画像診断センター 放射線治療センター 核医学検査室 心臓カテーテル検査室
		医療機器の安全使用の ために必要となる情報の 収集その他の医療機器 の安全使用を目的とした 改善のための方策の実 施状況	臨床工学センター 画像診断センターA

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体として
の管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 中島 格
閲覧担当者氏名	診療関係 各診療科部長(別紙2) 管理関係 事務部長 龍頭 充康
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延 0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	82.4%	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		18,129 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		26,792 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,563 人
	D: 初診の患者の数		29,618 人

(注)1 「紹介率」欄は、A、B、C、の和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

閲覧担当者一覧

診療科	閲覧担当者氏名	診療科	閲覧担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌尿器科	松岡 啓
消化器内科	佐田 通夫	産婦人科	嘉村 敏治
心臓・血管内科	今泉 勉	眼 科	山川 良治
腎臓内科	奥田 誠也	耳鼻咽喉科	中島 格
内分泌代謝内科	山田 研太郎	放射線科	早淵 尚文
血液内科	岡村 孝	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	内村 直尚	麻酔科	牛島 一男
小児科	松石 豊次郎	高度救命救急センター	坂本 照夫
外 科	白水 和雄	呼吸器病センター	白水 和雄
	田中 啓之	消化器病センター	佐田 通夫
整形外科	永田 見生	循環器病センター	今泉 勉
形成外科	清川 兼輔	内科総合外来	山田 研太郎
脳神経外科	森岡 基浩	乳腺外科・一般外科総合外来	白水 和雄
小児外科	八木 実	薬剤部	佐田 通夫
皮膚科	橋本 隆		

(様式第13-2)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・ 指針の主な内容 ・ 安全管理に関する基本的考え方 ・ 安全管理のための委員会その他医療機関の組織に関する基本的事項 ・ 安全管理のための職員研修に関する基本方針 ・ 事故報告等の医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ・ 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 他	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12回
・ 活動の主な内容 医療安全管理対策委員会 セーフティコントロールチーム委員会 インシデント小委員会 (医薬品安全管理小委員会、医療機器安全管理小委員会、抗腫瘍薬物療法プロトコル認証委員会 事故調査委員会、救急蘇生委員会)	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 13回
・ 研修の主な内容 TQM講習会(安全、感染) 1年13回	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	(有)・無
・ 医療機関内における事故報告等の整備 ・ その他の改善のための方策の主な内容: 委員会巡回確認 委員会での再発防止策の策定 職員に対する研修(全体研修、訪問研修) 安全情報(日本医療機能評価機構等) ポスター作成・配付、かわら版へ掲載	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有)(1名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)(1名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有)・無
・ 所属職員: 専任 (1)名 兼任 (2)名 ・ 活動の主な内容: ・ 医療安全管理対策の推進 ・ 医療安全各委員会企画・運営	
⑧ 当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無

(様式第13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・指針の主な内容： ・院内感染対策に関する基本的な考え方 ・院内感染発生時対応に関する基本指針 ・委員会等の組織に関する基本的事項 ・指針の閲覧に関する基本方針 ・職員研修に関する基本方針 ・その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針 ・院内感染発生状況の報告に関する基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
・活動の主な内容： ・VRE月例報告について ・久留米大学インфекションコントロールチームの活動報告	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 60回
・研修の主な内容： ・久留米大学におけるインフルエンザの対応 ・MRSAなどの耐性菌感染症について ・抗菌薬の適正使用について ・防護具の適切な着脱について ・標準予防策、手洗いについて	2010年36回 2011年8月現在24回
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・病院における発生状況の報告等の整備： （有）・無） ・その他の改善のための方策の主な内容： ・久留米大学インフェクションコントロールチームの月3～4回の巡回による感染対策の評価と改善策を実施 ・リンクナース会議の際に、「針刺し報告件数」や院内の感染発生状況・対策などについて報告	

(様式第13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
・研修の主な内容： ・薬を安全に使用するために ・内服薬処方箋記載に関する安全対策	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・手順書の作成 (有)・無) ・業務の主な内容： ・病棟、外来の定数配置薬の数や有効期限の定期的チェック ・麻薬、向精神薬の管理状況 ・手順書遵守状況の確認(ダブルチェック、指示出し・指示受け等)	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医薬品に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・インシデントレポートより対応が必要な事項の抽出をし、研修会などへ繋げる。 ・特に注意を要する注射薬は、注射せんにコメントを記載するようにした。 ・ヒトGLP-1アナログ注射液「ビクトーザ皮下注18mg」の適正使用について通達を出し、周知徹底を図る。 ・日本医療機能評価機構医療事故情報収集等事業の医療安全情報をオーダリング上に掲示 ・「抗がん剤の血管が胃瘻周辺の皮膚障害及び対処法について」「インスリン製剤一覧」 「梅毒・ハイリスク薬注射薬の一覧表」等を改訂しオーダリング上に掲示	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の使用に係る安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 26回
・研修の主な内容： ・人工呼吸器：安全な使用のため注意事項、構造、アラーム及び対処法 ・閉鎖式保育器：使用前の点検、使用中の安全管理、注意事項、その他 ・血液浄化装置：血液浄化の安全管理、緊急時及びアラームの処理、その他 ・人工心肺装置、補助循環装置：安全な取扱い、緊急時の対処法、日常の管理について ・除細動装置：基本的な構造及び使用方法、日常点検、注意事項について ・MRIの磁場体験 ・線量計の取扱い ・CT、MRIの安全管理(トレーニング) ・患者介助の仕方 ・更新された一般撮影用X線装置の取扱い	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・計画の策定 (有)・無) ・保守点検の主な内容： ・人工呼吸器、閉鎖式保育器、血液浄化装置、人工心肺装置及び補助循環装置、除細動器については、年に1回の定期点検及び必要な部品の交換を行っている。 ・日常点検については、人工呼吸器、血液浄化装置、人工心肺装置及び補助循環装置、閉鎖式保育器、除細動装置、AED、ICU患者監視装置などについて行っている。 ・人工呼吸器の組み立て及び機器チェック ・始業点検、メーカーによる定期点検 ・技師によるX線出力、管電圧測定、安全点検の実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・その他の改善のための方策の主な内容： ・医療機器安全情報については多方面より情報収集を行い、より重要な情報については、医療機器管理小委員会、医療安全管理対策委員会に報告、また、各病棟・外来・関係講座へ「安全情報」として配付することにより院内への周知を行っている。 ・インシデント報告と周知 ・新人技師を対象とした安全検査講習会の開催 ・機器情報の掲示(安全に関する情報) ・新しい装置の取扱説明	